

第13回 Excel編 Excelの基本操作（2）

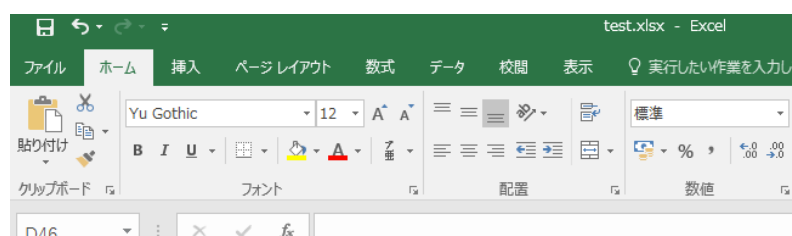
担当者：張 俊超（チョウ シュンチョウ）

Part I

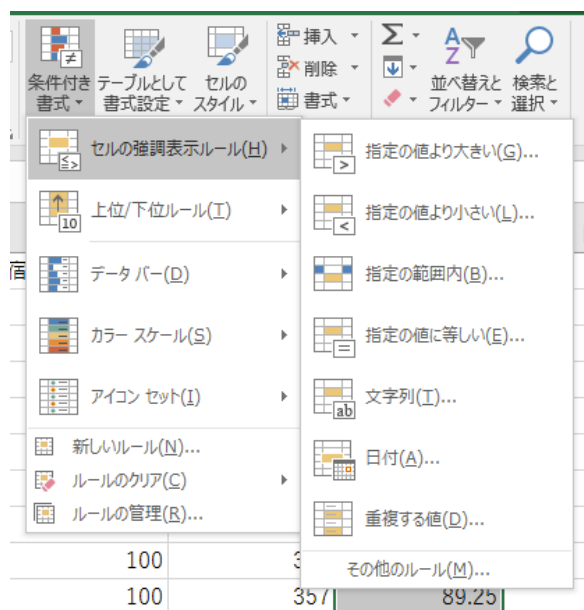
1 Excelの基本操作（2）

1.1 条件付き書式

「ホーム」タブの下で、文字・数字のスタイル、サイズ、色、配置などを設定することができる。ただし、変更したいセルをまず選ぶ必要がある。データが非常に多くなると、数百セル・行・列から書式を設定したいものを全て選ぶのが面倒。（例えば、5000行のデータの中、女性のデータは2659行とする。女性をデータを赤にして強調するために、2659行のデータを選ばないといけない。）

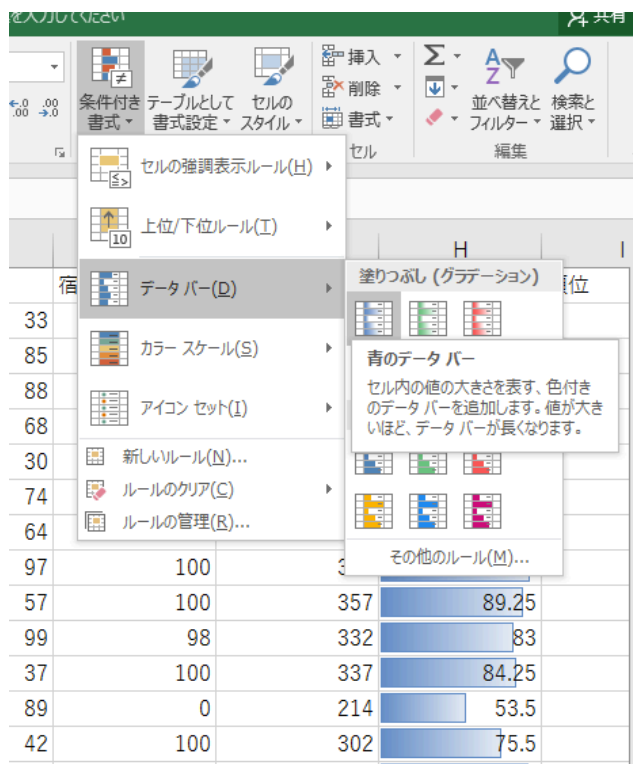


条件付き書式で設定すれば、手で設定したいセル・行・列を選ぶ必要はなくなる。

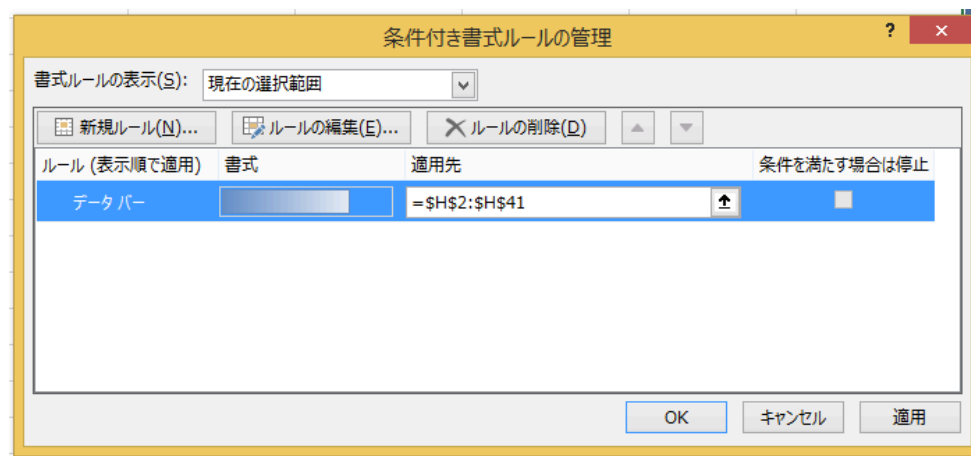


1.1.1 データバー

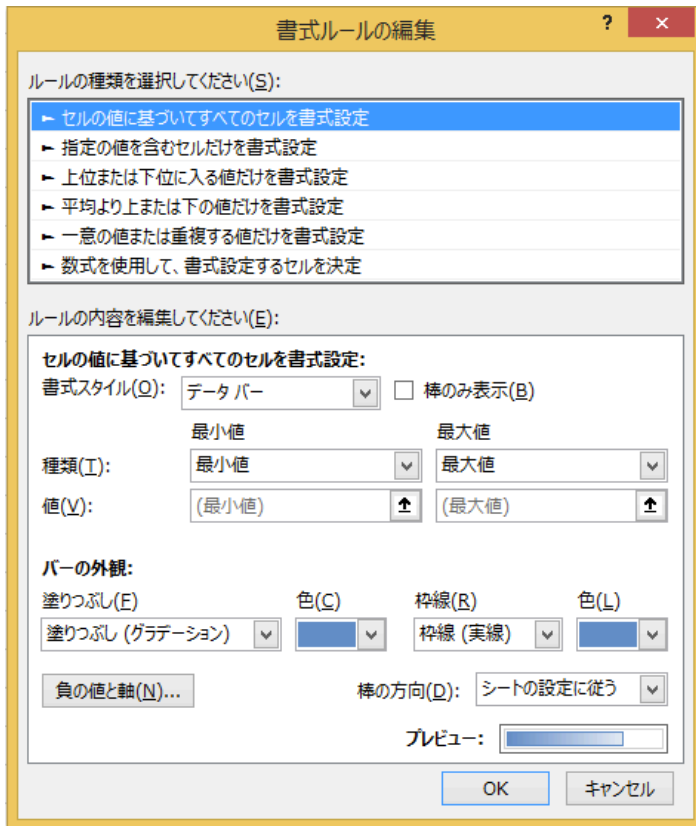
データバーの機能は、数字をバーグラフで表示し、見やすいように設定できる。



細かい設定をしたい場合、「条件付き書式」－「ルール管理」で、ルールをダブルクリックする。



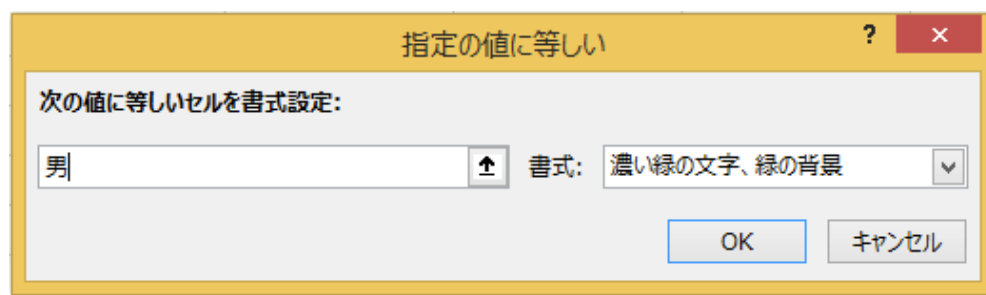
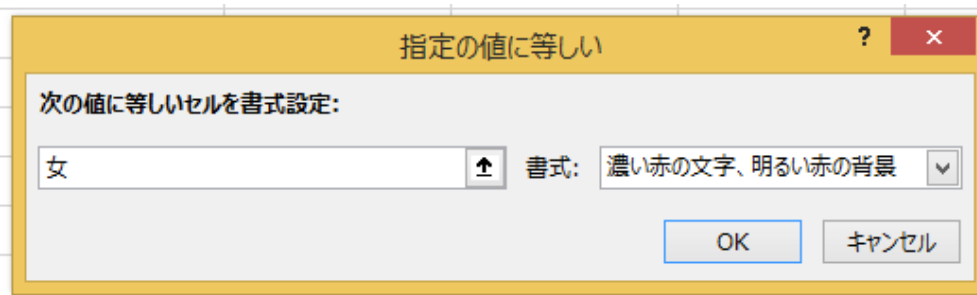
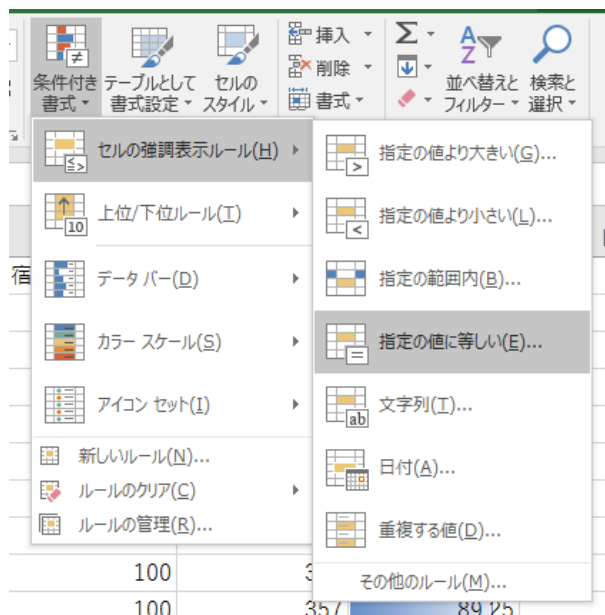
以下のメニューで、データバーの外観を変更できる。



1.1.2 セルの強調表示

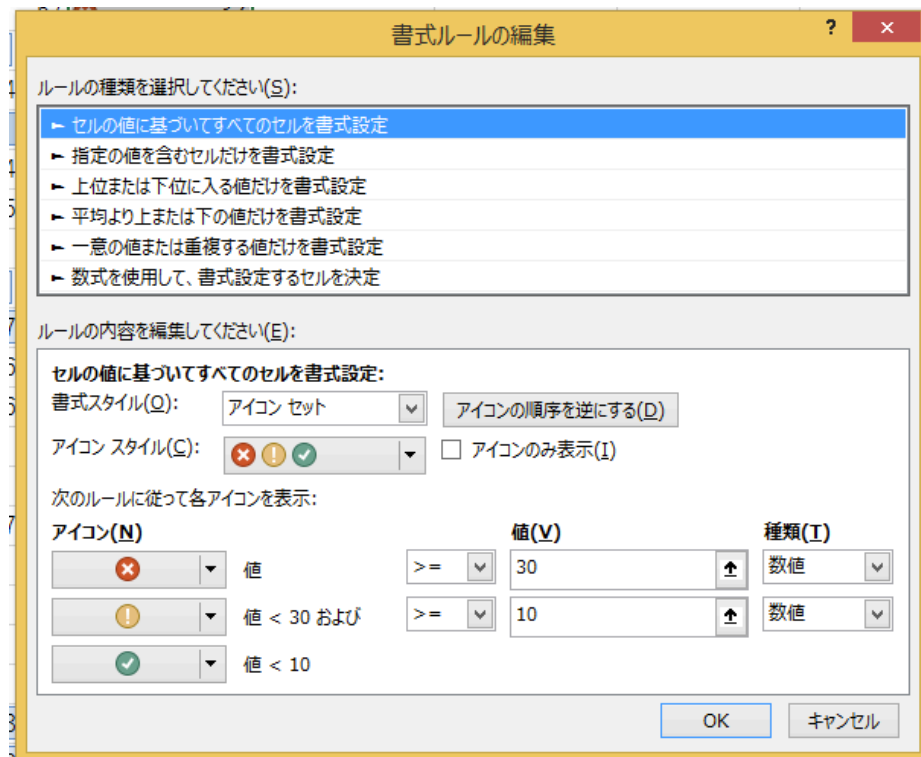
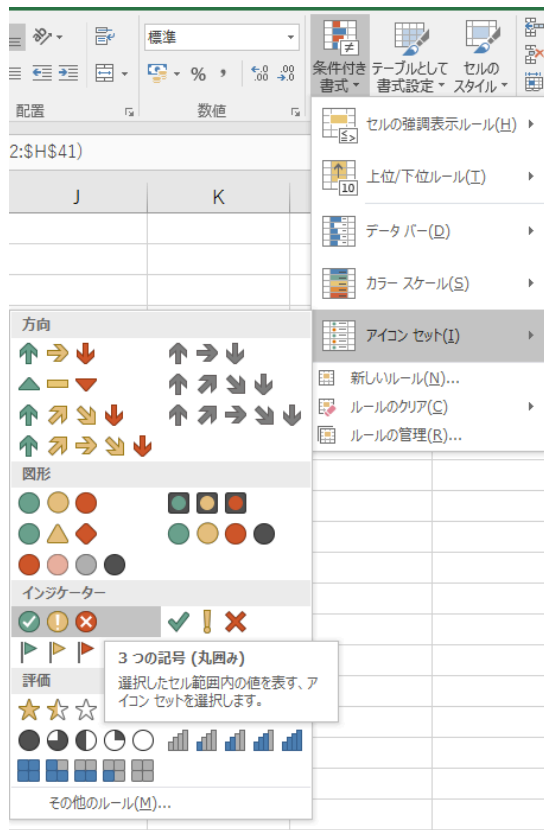
あなたは女性のセルを赤にして、男性のセルを緑にして、性別を区別したいとする。

1. 「条件付き書式」－「セルの強調表示」－「指定の値に等しい」を選択する。
2. 「女」を入力し、書式を「濃い赤の文字、明るい赤の背景」を設定してください。
3. 1を繰り返し、「男」を入力し、書式を「濃い緑の文字、明るい緑の背景」を設定してください。



1.1.3 アイコンセット

「条件付き書式」－「アイコンセット」で、セルの値によって、マークをつけることができる。



降順によって、つけたマークが直感的でなくなる場合、「書式ルール編集」メニューで、「アイコンの順序を逆にする」を押すことで調整できる。

1.2 論理関数

1.2.1 IF関数

IF関数の書式は

IF(条件,処理 1,処理 2)

で表す。条件が満たしている場合、処理 1 を指定し、満たしていない場合、処理 2 を指定すること。

例：点数 60 以上は合格、60 未満は不合格。

複数の条件があれば、AND関数またはOR関数をIF関数と併用することが可能。

1.2.2 AND関数

AND関数（IFと併用した場合）の書式は、

IF(AND(条件 1,条件 2,...),処理 1,処理 2)

で表す。条件 1、条件 2...が全て満たしている場合、処理 1 を指定し、以外の場合は処理 2 を指定する。

例：4回の宿題を全て提出すれば（4回の宿題の点数はそれぞれ0でないこと）、1を表示、以外の場合、0を表示。

1.2.3 OR関数

OR関数（IFと併用した場合）の書式は、

IF(OR(条件 1,条件 2,...),処理 1,処理 2)

で表す。条件 1、条件 2...がいずれか満たしている場合、処理 1 を指定し、以外の場合は処理 2 を指定する。

例：欠席したことあれば、“欠席”を表示、以外の場合は””を表示。

1.2.4 処理にさらに条件が入っている場合

現実の問題に、複数の条件だけでなく、「処理」にさらに「条件」が入っている場合がある。

例えば、90点以上は秀、90点未満は秀でない。さらに、優（80以上90未満）を区別するために、新しい処理2に入っている条件が必要。

同様、さらに、（相対的な）「処理2」に条件を追加すると、良、可、不可を区別できる。

Part II

2 課題

1. シート1に、教科書p127の演習問題(2)標準体重
2. シート2に、教科書p120の演習問題(1)100M走
3. シート3に、教科書p128の演習問題(3)小遣い帳